淺草觀音縁起

利
2·803

2803

世間よ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小傳馬三町月

[illegible]

中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふんとぶべかりしを。ぶ。ぶ。ぶ

ばかりひろごりあげ。二人もろこのなかにいれ。こと
よのくとうだそうふうこなるいもやうに丹茶
の「だそ」とこれむやひとつまへ。あんとさて
なるもうるおんよさこびなりえんとうこ。中略
のゆとゆうくと。和ゆうこ。中略
こそ後まを歌せまこ。中略
九月十日。名よあつ。たかう初度の
ゆうこ。ゆうこ。ゆうこ。ゆうこ。
あらんと。ゆんとばりこうこ。強度の後ふ

サレ
ゆんとこうして。まひ。高の山ふれ。はこら
ゆうこ。ゆうこ。ゆうこ。ゆうこ。
さう迷ふまたう。ぬもつ。ゆうこ。
ひとこのせうこ。とのこひこ。
てるれに。れもこ。ゆうこ。
ゆうこ。ゆうこ。ゆうこ。ゆうこ。
うすたとのぬこ。高こ。
ひとすこつまひこ。ゆうこ。
たこ。ゆうこ。ゆうこ。ゆうこ。

つゝの人よりの物をつるがれて。ぬすまれ
氣まぞとぢうひうらぶせ。むつとと言て
目すくうろへ者。ぶひわ色て狂乱の面よさ
びしさを拾なぐもぐるをとせてみをぐ祈へ
うびぶもあり。あ。われもわれもせあ中と
ゑのうちうにさひらまそいうを面うすす
ぐやうらぶ。ぶしさめぐうわいいを崇
ふ外悩のひうへうをれすぐうんの。がふ
うふ。ぶしさぐれ。ぶたうぶ惜ぶ人数

さうもうもうひくうひゆうにかひて弱
ぶうて。たにぬ。ぬの物ゑとうんをひて。
あやしなそれあ。いうあゆうるとし。
をこ人人に寄りこと。とををもへうう女
ぶふのうんへ。ぬえ。自うハひ里の編りあて
ゆう。ぬ自ふ里ふ。ぬの目ふ。ぬの目とぶりよ
ひけうや。ぬ。ぬひうれ。なのすく出て茅を
むひ。ふうへわやこそるのかうを。ぶ
ひ。ぬ本のぶり方。ぶ眼えぬ。ぶ。ぬふ

世あまねくさく後れぬ世の上よりつ見
こうて世世にまかして働うず。まことをもて
わらざれば。うつくしうよつ。れんぶのさた自ラよふ
まことうこそのひハみざうそひろうかつて来
つるとやけ見八同世のゆげ。もぶひ。ふ
ざつ川中そ又世世新世者。来新ものもまれる世。
無昌とのひ塙内の名而田行来ゆとろ
つてゆのせるふ。ちかい色「如八のれよ新体
流ふちの流うぶぬ流ふれうと。
川

ちなびく川中流ふ。そしく流ふ。新世者のゆらのと。新なる。
世八行世三年沢世ものとそうこ三千六ふ戦ふ。
三月十八日。武弘中流の新八ふ。ふ紙ふ。
の中世と云ふ。新世者ふ。
新ふ。ふ。の流ふ行新ふ。
三八とふ。入ふ川よ。一ふ。
なびふ。ねとふれんとふ。ふ。
ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

のべ[二字]ぶ[二字]めやごうが[二字]ぐ[二字]ぐ[二字]ぐ[二字]。中イロチ釈世[二字]ぶ[二字]
かまへ。そこ[二字]ぬ[二字]ぬ[二字]ぬ

咲うへ。あぐるの親世者わぐもとろ、春
色とうろう芽出中のうもわらごと云葉元
色都とぬて結び社ひがやまて面〇我
ふさ色こふう色をうるうろて赤の代よ
わらぶ者とへやすとうろ中やまと世のごうろ。
当ぎ物者うつ。物者建立の良找物ふ
つうけるぞ。ちやり上すとふれうう。
ちうう色てさちの大は一ちはみうう
引物のちあうるうろむのやぐわらぐとよ。

なぐれうう黒人悦び引上げうう。そはらう
いうちのつもたるとぐ。ぐ程の花ぐ物ぐうう
風ぐさんまん。今多ぐ
ぐうりや親のべとふ
建立するぐとりの
山号と人参ぐ山と名付
まぐ人ぐうりぐ
と。紐ゆてう上げ。色人の者ハいうふぞや。
さんぐ親世者みぐう人仏ちて後。ちんの中物

とわざ学ぶらむ。一の精舎とあがめ奉り
三人の兄弟は三社権現と祭ひつ。三月十八日
の祭礼も。代々神の御ときこそ。あら
まほしき十社権現とぞ。あがめ奉りける
と。若曲伝ていふぞや。わが人生は世の
浮雲さらさらと。うるはしつるぬぐ。ぬぐ
つそむのりの。乱れむこそ。かなしけれ
やがのあ長彩が三めぐ。
いわいんぐりいのいちひ。乗と号せ

なり。「帝釈」の宮殿。「正覚」の宮殿。「忍乃」おのの「月宮」殿の
光りとは。「文一」者のまの。「乃」枝まる。「十」畳張
の花咲て。「宮」倶成仏乃の実を。「逆」畳
若乃光り。「皆」大乗のあ色となり。「かか
生のいけ。ぬぐ。「ぬ」南面川の流れ。「光
悔の垢とそぐ。「ぬ」乳山の嵐。「ま」「ま」
義とれ。「ま」「ま」「見」仏関法乃。
多く。「見」そびて。法法の夏陽。「老」
とぞ。孫つ。光徳那。葉乃。

代のゆるれば二世あるべし。
ゆゑに、ひとの拙き
なるべしとぞ。
ゆゑにたのしげまぬかれ
ぬ。
ほうろう。そもそもまべうる尾なるこの世の船大きゝ
おごりなるもいい船ふねひぞとゝじわたれ
船ぶ中尾恨て元おろこゝとも色ゝ
ずや。君よまこゝろんそゝ
出ぬみ外よいのゝしよめぐり色ゝやど
さかくるのてぞうりたつ。世のかゆそ・赤色。
さるれかしこ。そこゝとうるべ・ゝ
ゝ

ゝ

ゝ
ゝ
ゝ

ようぶをしうしたる
ぶぜんなるこゝろ。
ゝく。はびこりて。
人くはびこりと。人
をかしてゆくれと。
老女うつしてこゝろ
ゆう。家こゝろ。
わらじの姿。
ゝ。そうさびあ
うまぶぜさたる

迎出
遠
人合
ぶ
ぶ
ぶ

はゝぎぎたる宿の
門にて今と先ふ
るかくとそろ
色ろ
色
やと問ふまてかく
弘法の御かごゆめ
まくらまさよへんも
ゝ尾ゝ折まそ

ひかゝ
ゝ
ゝ

やら。後ゑやくいかあ者へもひ進めて。打数さ
ずと。ゑる。ゆ。色。進ゆ。しうさんもつ色。ないれ
とゆうゑく。後と。求て。進ゆ。ゑ。色。ゆうゑ
へ。源やんなり。ゆ。ゑ。ふ。ひ。進つか。月ようけて。花かく
らんと。ゆうゑ。ゑ。ゑ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三世二位の白道又[illegible]

右此本者土佐少掾橘正
一勝

正德四甲午曆初